

奈義町教育委員会通信

Nagi Town Board of Education News

発行：奈義町教育委員会 学事課

No.17 令和3年12月1日号

～夢に向かって自ら学び ともに高め合う「なぎっ子」～

「家庭と子どもの成長」の学習の一環で

中学生が幼稚園に来てくれたよ！

中学校の3年生39名が、11月25日に中央東幼稚園、26日に滝川つくし幼稚園に**保育実習**にそれぞれ来てくれました。これは、「家庭と子どもの成長」として、幼児とのかかわり方や触れ合う楽しさなどを学んでいる中学校の家庭科の授業として実施したものです。



まずはじめに、園児たちは中学生の合唱を聞かせてもらいました。「大きくなるとこんなに綺麗な声で歌えるんだ…」「同じ歌なのに声が分かれてる!」と、**声の美しさ**や**パートが違うことに気づく**など、聴き入っている様子でした。



そのほか「ハンカチ落とし」や「しっぽ取り」、「だるまさんが転んだ」などをして、楽しく触れ合うことができました。ときに全力で逃げるお兄ちゃんやお姉ちゃんに負けないよう、一生懸命に走ってしっぽを取りに行き、中学生のしっぽが全部取れた時には**みんなで大喜び**。

また、「手作りマスク」と折り紙で作った「こま」をもらい、一緒に回して遊んだり、手を添えてもらいながら折り方を教わったりして過ごしました。（翌日には、多くの園児が**もらったマスクで登園していました!**）



実習の最後には、ピアノやけん玉、習字や一輪車など中学生の特技を見せてもらい「すごいなあ」「じょうず!」と感心しながら、**中学生に対する憧れの気持ち**を抱いた園児たちでした。

今年度から4年生が「白浪五人男」にチャレンジ!

“横仙歌舞伎”の稽古が始まっています

小学校では、**平成17年から**総合学習の授業で「横仙歌舞伎」を学んでいます。町の歌舞伎専門職員が講師を務め、古くから伝わる伝統芸能に触れることで、まちのことを思う気持ちが育ってくれるようにと取り組んでいるこの事業。**今年度から、4年生がこの学習に取り組み**、来年2月の参観日での披露に向けた稽古が進んでいます。



挑戦するのは「べんてんむすめおのしらなみいせがわせいぞろ**弁天娘女男白浪稲瀬川勢揃いの場**」。この日は、プロの映像を見せてもらった後、言い回しと特徴的な動きをやってみました。「ウゴークナ!」「2文字目を強調してごらん、歌舞伎っぽく聞こえるから」…。「傘を持ち替える一、逃げて一、迎えて、足が出る。遠くをつかんで、きくの一すけ」…。複雑な動きや長台詞を一つひとつ確認しながら、練習していきます。成果発表が待ち遠しいですね!



包括的連携協定を結ぶ“岡山理大”からの出前授業 恐竜学博物館見学が楽しみになりました

11月30日、岡山理科大学生物地球学部の實吉先生と大学院生が小学校で授業をしてくださいました。これは、12月3日に小学6年生が課外研修としてお伺いする「岡山理科大学恐竜学博物館」見学に向けた出前授業として実施したものです。



恐竜の化石が発掘される場所や、発掘調査の仕方、化石を掘るときの体験談など、なかなか聴くことのできない貴重なお話に子ども達も興味津々でした。また、岡山理科大学恐竜学博物館でしか見ることのできない化石について事前に紹介してくださったり、見学に向けてのクイズを用意してくださったりなど、子ども達は当日がさらに楽しになった様子でした。



今まで恐竜や化石にあまり興味がなかった児童も、この日のお話を聴いて興味をもつことができたようです。また、当日は特別に化石のクリーニング室を開けてくださったり、化石を触る体験をさせてくださったりするそうです。

各種協定を結ぶ岡山理科大学、美作大学で 大学生への応援事業を行っています

奈義町教育委員会と各種協定を締結している大学で、コロナ禍で様々な活動制限や収入減少などが続く学生への支援として、町特産材を使用した豚汁を配布しながら、町のPRを行っています。12月1日の岡山理大では、約350食を無料配布。笑顔の「ごちそうさまでした」で、こちらも元気をもらいました。6日には美作大に行ってきます！



👉 少しずつですが「いいね!」も「フォロワー」も増えてきました👉

「奈義町教育委員会」更新中!

●問い合わせ先 奈義町教育委員会 学事課（文化センター内）

Tel : 0868-36-4195 / E-mail : kyouiku@town.nagi.lg.jp



人と人とのつながりも感じた“竹”を使ったおもちゃ作り

～奈義町教育委員会SNSより～

この秋、幼稚園では「学校運営協議会」や「学校サポーター」の方々にご協力をいただき、竹を使ったおもちゃ作りを行いました。

年少児は「水鉄砲」作りに挑戦。「これ、すごいよく飛ぶで!」「いつも(プラスチック)のと違うなぁ」と大喜び。「ポックリ」は、年長児が二人一組で、のこぎりを使って竹を切る人、押さえる人と役割を決めて行いました。委員さんやサポーターさんに持ち方や切り方を個別に教えていただき、「これで、遠くまで行ってみよう」と、喜んでポックリに乗っていました。

切りやすいようにと切れ目を入れてくださったり、ひもを通す穴をあけてくださっていたりと、子どもたちのことを考えての準備や配慮など、人と人とのつながり、植物の生長過程など、いろいろな経験をした竹細工作りでした。

